

コロナ禍の世界

横浜市駐在員レポート

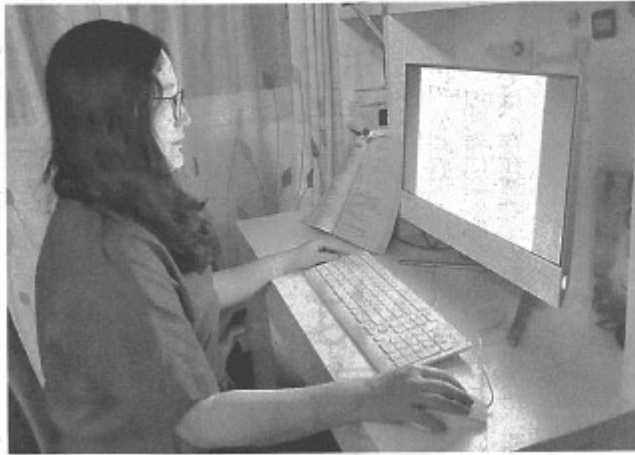
15

上海

厳しい学歴社会の中国では、教育熱が高い。「一人っ子政策」は廃止されたが、より良い教育を受けさせるために一人っ子を望む家庭も多い。子どもの安全と教育の質を保つことは、コロナ禍でも最重要事項だ。

1月下旬以降、幼稚園から大学まで休みとなり、4〜6月にかけて高校、中学校と小学4年生以上、小学校3年生以下と幼稚園、の順で段階的に再開した。感染状況が悪化し、再開日を急に繰り下げたこともあった。

上海では7月半ばから夏休みだったが、「生徒も教師も新学期前の2週間は市内滞在」と通知されている。8月16日以降、親は子どもが市内にいることや体温などを



横浜市立みなと総合高校の姉妹校・上海市工商外国语学校の蘇芬(スー・フェン)教師は自宅からオンライン授業を配信した
5月25日、上海市

健康に留意し新学期へ

の健康状態を、毎日釘釘で学校に報告するよう義務付けられている。学校は9月以降、マスクと消毒物資を備蓄し、大集会は開かない。

大学も8月下旬から、ようやく開学する。各大学は寮に住む地方出身者に、健康管理やルール周知などを徹底している。7カ月の経

（横浜市上海事務所長・川島とも子）